

#### 4. 都道府県行動計画の見直しについて（社会的養護関連部分）

##### ・ 計画策定に向けた調査について

昨年11月の社会保障審議会児童部会社会的養護専門委員会報告書の中に、社会的養護体制の計画的整備として「都道府県において社会的養護体制の整備やその質の向上のため計画を作成し、これを公表する。」こととされており、国においても、「具体的な社会的養護の必要提供量の算定方法の考え方」を示した「計画的な整備や質の向上を図るための基本指針を作成する必要がある。」とされている。

このため、社会的養護の提供体制に関し、その提供量を見込む際に勘案する事項など、適切な整備量を確保するために必要な事項をお示しし、都道府県において社会的養護の提供体制の整備に関する計画を作成していただくことを検討しており、その計画作成を進めるための参考となるデータをとるため、児童相談所を対象として調査を実施する。

##### 【後期行動計画策定スケジュール(案)(社会的養護関連部分)】

		厚生労働省	都道府県
20年	8月	都道府県会議 調査方法・スケジュール説明	
	10月		計画のための調査実施
	11月		調査とりまとめ(国に提出)
	12月	調査結果集計	
21年	2月	調査結果等を踏まえ、量の見込み方の考え方、例を提示	
	3月		各都道府県において見込むためのデータ収集・見込み開始
	8月		見込んだ数字を国へ報告
22年	1月		後期行動計画素案作成完了
	3月		計画の決定・公表

## 平成20年度 社会的養護ニーズ把握調査要綱（案）

### 1. 調査の目的

社会保障審議会児童部会社会的養護専門委員会の報告書を踏まえ、社会的養護を必要とする子どもの数の増加、虐待等子どもの抱える背景の多様化等により、社会的養護の質・量の充実を図り、体制整備を図ることが課題となっているが、入所措置を行う児童相談所における相談状況からみた社会的養護ニーズを把握することにより、必要な社会的養護の提供量を算定し、計画的な整備をすすめることを目的とする。

### 2. 調査の対象及び客体

全国の児童相談所及び児童相談所が平成19年度に入所措置した児童等を対象とし、その全員を客体とする。

### 3. 調査の期日

平成20年※月※日～平成20年※月※日  
(通知発出日) (通知発出日から45日後)

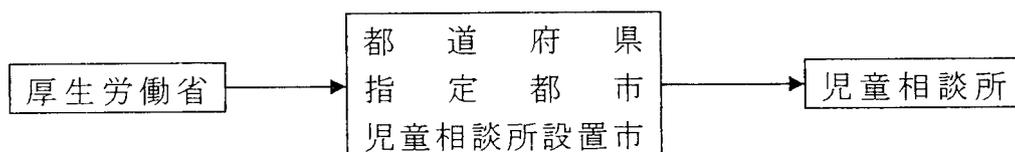
### 4. 調査事項

調査事項は、入所措置した児童の出生年月日、性別、入所年月日、施設種別等社会的養護ニーズ把握調査票に掲げる事項とする。

### 5. 調査の方法

- (1) 厚生労働省においては、雇用均等・児童家庭局が調査の企画・立案を行う。
- (2) 都道府県においては、民生主管部（局）が児童相談所の協力を得て調査を実施する。

### 6. 調査の系統



### 7. 集計及び結果の公表

集計及び結果の公表は、雇用均等・児童家庭局が行う。





質問5 貴自治体で独自に社会的養護ニーズを調査・把握している場合は、その状況及び実施方法（自治体で記入のこと。別途既存資料等添付可）。

ご協力ありがとうございました。

# 平成20年度社会的養護ニーズ把握調査（案）

（児童個票）

厚生労働省雇用均等・児童家庭局

都道府県		児童相談		児童			
市番号		所番号		番号			

児童相談所名 \_\_\_\_\_

この調査票は、平成19年度新規入所件数（福祉行政報告例第45のうち、対応内容が「児童福祉施設入所」及び「里親委託」のもの（措置変更を含む）に計上された児童が対象となります。

## 質問1 子どもの状況

性別	1 男	出生年月日	1 昭和	<input type="text"/>	年	<input type="text"/>	月	<input type="text"/>	日
	2 女		2 平成						
入所年月日	1 昭和	<input type="text"/>	年	<input type="text"/>	月	<input type="text"/>	日	一時保護の有無	1 あり
	2 平成								2 なし

## 質問2 子どもが入所した施設の種別

1. 里親	2. 乳児院	3. 児童養護施設	4. 情緒障害児短期治療施設	5. 児童自立支援施設
6. 自立援助ホーム	7. 知的障害児施設	8. 肢体不自由児施設	9. 重症心身障害児施設	
10. その他 ( )				

## 質問3 子どもが入所した施設の所管が他の自治体である場合の自治体名

都道府県市番号		
---------	--	--

## 質問4 養護問題発生理由（複数回答可：最大4つまで）

1. 父の死亡	2. 母の死亡	3. 父の行方不明	4. 母の行方不明
5. 父母の離婚	6. 両親の未婚	7. 父母の不和	8. 父の拘禁
9. 母の拘禁	10. 父の入院	11. 母の入院	12. 家族の疾病の付き添い
13. 次子出産	14. 父の就労	15. 母の就労	16. 父の精神障害等
17. 母の精神障害等			
18. 父の放任・怠だ	19. 母の放任・怠だ	20. 父の虐待・酷使	
21. 母の虐待・酷使	22. 棄児	23. 養育拒否	24. 破産等の経済的理由
25. 子どもの問題（障害・非行・問題行動等）による監護困難			
26. その他 ( )			

質問5 きょうだいの状況

きょうだいの有無	1 あり	児童福祉施設への入所または里親委託の有無	1 あり
	2 なし		2 なし

補問5-1についてお答えください。

補問5-1 きょうだいの人数

きょうだいの人数	<input type="text"/> 人	同じ施設	<input type="text"/> 人	違う施設	<input type="text"/> 人
----------	------------------------	------	------------------------	------	------------------------

補問5-2についてお答えください。

補問5-2 違う施設の場合の施設種別及び入所人数

施設種別	入所人数
1. 里親	<input type="text"/> 人
2. 乳児院	<input type="text"/> 人
3. 児童養護施設	<input type="text"/> 人
4. 情緒障害児短期治療施設	<input type="text"/> 人
5. 児童自立支援施設	<input type="text"/> 人
6. 自立援助ホーム	<input type="text"/> 人
7. 知的障害児施設	<input type="text"/> 人
8. 肢体不自由児施設	<input type="text"/> 人
9. 重症心身障害児施設	<input type="text"/> 人
10. 母子生活支援施設	<input type="text"/> 人
11. その他 ( )	<input type="text"/> 人

質問6 保護者の状況 (1つだけ選んでください)

1. 実父母あり	2. 実父のみ	3. 実母のみ	4. 実父・養(継)母	5. 養(継)父・実母
6. 養(継)父・養(継)母	7. 養(継)父のみ	8. 養(継)母のみ		
9. 両親ともいない又は不明				

(質問6で「9」を○で囲んだ方におたずねします。)

補問6-1 主たる保護者

1. 祖父母	2. 養(継)父母の親	3. 兄・姉	4. 義兄・義姉	5. 伯(叔)父母
6. 義伯(叔)父母	7. 里親	8. その他 ( )	9. なし	10. 不明

質問7 家庭復帰の見通し【親(主たる養育者)がいる場合】

1. 家庭復帰の見込みあり	2. 当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向け調整中
3. 家庭復帰困難又は見込みなし	4. 判断困難

質問8 子どもの状況

評価項目	評価対象 年齢	評価 対象外	疑い なし	やや 疑い あり	疑い あり	確かに 問題 あり	判断 困難
1. 自閉的傾向（人に対して反応しない、視線が合わない等）	4か月～15歳	1	2	3	4	5	6
2. 養育者との関係性（なつかない、過度の反抗、養育者への暴力等）	2歳～10歳	1	2	3	4	5	6
3. 注意欠陥・多動傾向（落ち着かない、過度の注意散漫等）	2歳～15歳	1	2	3	4	5	6
4. 反社会的行動傾向（いじめ、過度なけんか、嘘、性的問題、窃盗等）	2歳以上	1	2	3	4	5	6
5. 抑うつ傾向（継続的な落ち込み、食欲不振、自殺念慮等）	7歳以上	1	2	3	4	5	6
6. 学習障害傾向（特異な読み書き、計算の問題）	7歳～15歳	1	2	3	4	5	6
7. 物質使用（アルコール、タバコ、薬物等）	11歳以上	1	2	3	4	5	6
8. 自傷行為（抜毛、頭打、リストカット、自殺未遂等）	2歳以上	1	2	3	4	5	6
9. 集団不適応（不登校、学校等でのいじめられ、孤立、反抗等）	7歳以上	1	2	3	4	5	6
10. 社会的引きこもり（長期にわたる外出拒否）	16歳以上	1	2	3	4	5	6
11. 排泄問題（夜尿、遺糞など）	5歳～10歳	1	2	3	4	5	6
12. 摂食障害傾向（拒食、過食、異食など）	7歳以上	1	2	3	4	5	6
13. 睡眠障害（不眠、過眠など）	7歳以上	1	2	3	4	5	6
14. 知的障害	3歳以上	1	2	3	4	5	6

質問9 子どもの心身の状況（身体疾患・障害）

心身の 状況	1 <u>あり</u>
	2 なし

（質問9で「1」を○で囲んだ方におたずねします。）

補問9-1 子どもの身体疾患・障害（複数回答可）

1. 外科系	2. 内臓系	3. アトピー性皮膚炎	4. アトピー以外の皮膚の病気
5. 泌尿器の病気	6. 耳鼻科・眼科の病気	7. 喘息	8. 喘息以外のアレルギーの病気
9. 視覚障害	10. 聴覚障害（難聴）	11. 言語・音声障害（ろうあ）	12. 肢体不自由
13. 内部（内臓）障害	14. 免疫機能障害	15. その他（	）

質問 10 子どもの心身の状況（精神障害）

心身の 状況	1 <u>あり</u>
	2 なし

（質問 10 で「1」を○で囲んだ方におたずねします。）

補問 10-1 子どもの精神障害

精神障害	確定診断 あり	疑い あり	判断 困難	
1. 発達障害系	1	2	3	※精神遅滞、学習障害、広汎性発達障害、発達性協調運動障害、コミュニケーション障害（音韻障害、吃音等）等
2. 行動障害系	1	2	3	※注意欠陥・多動性障害、行為障害、反抗挑戦性障害等
3. 不安障害系	1	2	3	※パニック障害、全般性不安障害、強迫性障害、外傷後ストレス障害、恐怖性障害、分離不安障害、反応性愛着障害、解離性障害、転換性障害、その他身体表現性障害等
4. 気分障害系	1	2	3	※大うつ病性障害、気分変調性障害、双極性障害等
5. その他の精神障害	1	2	3	※摂食障害、排泄障害、選択性緘黙、常同運動障害、性障害及び性同一障害、睡眠障害、人格障害、統合失調症、その他の精神障害

質問 11 子どもの障害者手帳所持の状況

設問項目	所持（1級）	所持（2級）	所持（3～6級）	未判定（申請中）	なし	不明
1. 身体障害者手帳	1	2	3	4	5	6
2. 療育手帳 （知的障害者福祉手帳）	1	2	3	4	5	6
3. 精神保健福祉手帳	1	2	3	4	5	6

質問 12 定期的な通院の必要性の有無

設問項目	あり	なし	不明
1. 精神科・心療内科への通院の必要性	1	2	3
2. 精神科・心療内科での投薬の必要性	1	2	3
3. 精神科・心療内科以外の診療科への通院の必要性	1	2	3
4. 精神科・心療内科以外の診療科での投薬の必要性	1	2	3

質問 13 心理療法の必要性の有無

設問項目	あり	なし	判断困難	不明
心理療法の必要性	1	2	3	4

質問 14 被虐待体験の有無

被虐待体験の有無	1 <u>あり</u>
	2 なし
	3 不明

(質問 14 で「1」を○で囲んだ方におたずねします。)

補問 14-1 虐待の種類 (主なものを一つ選んでください)

- |          |         |          |          |
|----------|---------|----------|----------|
| 1. 身体的虐待 | 2. 性的虐待 | 3. ネグレクト | 4. 心理的虐待 |
|----------|---------|----------|----------|

質問 15 保護者対応の困難度

- |         |       |         |           |                   |
|---------|-------|---------|-----------|-------------------|
| 1. 大変困難 | 2. 困難 | 3. やや困難 | 4. 特に問題なし | 5. 児童相談所の指導に対し協力的 |
|---------|-------|---------|-----------|-------------------|

質問 16 本事例を入所措置 (里親委託) する際に、子どもの援助方針会議の際に入所措置をした施設種別以外の施設も含めた検討の有無

(当該施設の設置の有無や、空き状況等による実情は考慮せず、あくまでも子どもの処遇にとっての適切さの観点から回答してください)

検討の有無	1 <u>あり</u>
	2 なし

(質問 16 で「1」を○で囲んだ方は、補問 16-1、補問 16-2 にお進みください。)

補問 16-1 検討した施設種別

1. 里親	2. 乳児院	3. 児童養護施設	4. 情緒障害児短期治療施設	5. 児童自立支援施設
6. 自立援助ホーム	7. 知的障害児施設	8. 肢体不自由児施設	9. 重症心身障害児施設	
10. 母子生活支援施設	11. その他 ( )			

補問 16-2 その施設種別を選択しなかった理由

1. 検討した施設種別が当該自治体あるいは近隣府県で設置されていない	2. 入所定員が満床
3. 入所定員は空いているが、事例の要件で入所困難	4. その他 ( )

(補問 16-2 で「3」を○で囲んだ方におたずねします。)

補問 16-3 事例のどのような要件で入所が困難だったのか (複数回答可)

1. 年齢	2. 性別	3. 子どもの問題行動	4. 子どもの疾患 (病名: )
5. 子どもの障害 (障害名: )	6. 保護者対応が困難		
7. その他 ( )			

質問 17 入所措置する段階では、今現在入所している施設が最適と考え入所措置を行ったが、不調となり、平成 19 年度内に措置変更を行った又は現在措置変更の検討の有無

措置変更又は	1 あり
検討の有無	2 なし

(質問 17 で「1」を○で囲んだ方におたずねします。)

補問 17-1 措置変更先の施設種別

1. 里親	2. 乳児院	3. 児童養護施設	4. 情緒障害児短期治療施設	5. 児童自立支援施設
6. 自立援助ホーム	7. 知的障害児施設	8. 肢体不自由児施設	9. 重症心身障害児施設	
10. 母子生活支援施設	11. その他 ( )			

ご協力ありがとうございました。

# 第1章 調査の概要（案）

## 1. 調査の目的

この調査は、社会保障審議会児童部会社会的養護専門委員会の報告書を踏まえ、社会的養護を必要とする子どもの数の増加、虐待等子どもの抱える背景の多様化等により、社会的養護の質・量の充実を図り、体制整備を図ることが課題となっていますが、入所措置を行う児童相談所における相談状況からみた社会的養護ニーズを把握することにより、必要な社会的養護の提供量を算定し、計画的な整備をすすめるための基礎資料を得ることを目的とします。

## 2. 調査の対象及び客体

全国の児童相談所及び児童相談所が平成19年度に入所措置した児童等を対象とし、その全員を客体とします。

## 3. 調査の時期

平成20年10月頃とします。

## 4. 調査の実施主体

調査の実施主体は、厚生労働省雇用均等・児童家庭局とし、各都道府県・指定都市及び中核市に委託して行います。

## 5. 調査の方法

(1) 各都道府県・指定都市及び中核市の児童福祉主管課は、厚生労働省から配布された調査票を、管轄する児童相談所に所要枚数だけ配布します。

(2) 調査票を配布された児童相談所の長は、次の方法により調査を行います。

児童相談所は、平成19年度に児童福祉施設に入所又は里親委託した児童等について、児童相談所備付けの児童記録票に基づき調査票を作成して〇月〇日までに児童福祉主管課に提出します。

(3) 児童福祉主管課は、提出された調査票を審査の上、〇月〇日までに厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課に提出します。

## 6. 調査の集計及び発表

調査の集計及び発表は厚生労働省雇用均等・児童家庭局が行います。

## 第2章 調査票の作成

### 1. 調査票の記入上の一般的注意

#### (1) 調査票の受領

調査票及び送付票は、厚生労働省から各都道府県・指定都市及び児童相談所設置市の児童福祉主管課を通じて児童相談所に配布されるので、その枚数・汚破損の状況を確認し、不足の場合は直ちに請求して再受領してください。

#### (2) 調査票の種類

ア. 社会的養護ニーズ把握調査票（児童相談所票）

イ. 社会的養護ニーズ把握調査票（児童個票）

#### (3) 児童相談所番号の指示

各都道府県・指定都市及び児童相談所設置市の児童福祉主管課は、管轄する児童相談所について、1, 2, 3, ……と一連番号を割り当て、調査票を送付する際、児童相談所にその番号を指示してください。

#### (4) 児童番号の記入

児童相談所は、児童個票に、1, 2, 3, ……と一連番号を割り当て、調査票に記入してください。

#### (5) 調査票の記入者等

調査票の記入は、児童相談所において行い、児童個票についてはケース担当者等が調査票を作成します。

#### (6) 記入上の一般的注意

ア. 調査票への記入は、黒（又は青）のインクかボールペンを使用して、かい書で明瞭に記入することとし、鉛筆は使用しないでください。

イ. 調査票への回答方法は、次の方法によります。

- ① 調査事項のうち、算用数字が印刷してあるところは、該当する数字を○で囲みます。
- ② 「その他（ ）」欄は具体的な内容を記入します。
- ③ □ 内は、算用数字を右詰めで記入します。

ウ. 誤記入の訂正は、誤った回答 ——（横線2本）で消し、正しい回答を○で囲みます。数個を訂正の場合は、正しい回答を上部余白に記入し、インク消しを用いたり、はり紙をしたり、削ったりしないでください。

## 2 社会的養護ニーズ把握調査票（児童相談所票）の記入要領

- |                                 |   |
|---------------------------------|---|
| (1) 児童福祉施設<br>入所件数              | 平成 19 年度新規に児童福祉施設に入所措置した件数（福祉行政報告例第 45 のうち、対応内容が「児童福祉施設入所」である件数）を記入します。   |
| (2) 里親委託件数                      | 平成 19 年度新規に里親に委託した件数（福祉行政報告例第 45 のうち、対応内容が「里親委託」である件数）を記入します。   |
| (3) 長期一時保護<br>件数                | 平成 19 年度に相談受付した事例のうち、一時保護を長期（1 か月以上）実施した件数を記入します（施設入所及び里親委託中の事例は除く）。  |
| (3)-1 施設入所等<br>検討件数<br>（一時保護）   | (3) の事例のうち、施設入所（里親委託）を視野に入れ対応した事例の数を記入します。  |
| (3)-2 施設入所等<br>検討施設種別<br>（一時保護） | (3)-2 の事例のうち、施設入所（里親委託）を視野に入れ対応した事例の検討を行った施設種別について、当該児童にとって最適と思われた施設種別を 1. から 11. までの中から 1 事例につき一つ選び、それぞれの施設種別ごとの合計人数を記入します。<br>「11. その他」は、1. から 10. のいずれにも該当しない場合で、○で囲み、施設種別とその人数を（ ）の中に記入します。「その他」の施設が複数ある場合は、欄外に施設種別と施設種別ごとの人数を記入してください。 |
| (3)-3 年度内施設<br>入所等件数<br>（一時保護）  | (3) の事例のうち、平成 19 年度中に施設入所（里親委託）した事例の数を記入します。  |
| (4) 施設入所等<br>検討件数<br>（在宅指導）     | 平成 19 年度に相談受付した事例のうち、在宅指導した事例の中で、施設入所（里親委託）を視野に入れ対応した事例の数を記入します。  |
| (4)-1 施設入所等<br>検討施設種別<br>（在宅指導） | (4) の事例のうち、施設入所（里親委託）を視野に入れ対応した事例の検討を行った施設種類について、当該児童にとって最適と思われた施設種別を 1. から 11. までの中から 1 事例につき一つ選び、それぞれの施設種別ごとの合計人数を記入します。<br>「11. その他」は、1. から 10. のいずれにも該当しない場合で、○で囲み、施設種別とその人数を（ ）の中に記入します。   |
| (9) 社会的養護<br>ニーズ調査              | 自治体で独自に実施している社会的養護ニーズの調査を実施している場合の方法・結果についての内容を記入します。別途既存資料がある場合は、その資料の添付でも結構です。  |

### 3 社会的養護ニーズ把握調査票（児童個票）の記入要領

※調査対象は、平成19年度新規入所件数（福祉行政報告例第45のうち、対応内容が「児童福祉施設入所」及び「里親委託」のもの（措置変更を含む）

- |                   |   |
|-------------------|---|
| (1) 子どもの状況        |   |
| 子どもの性別            | 子どもの性別について、どちらかを○で囲みます。   |
| 子どもの生年月日          | 子どもの生年月日を記入します。   |
| 入所年月日             | 子どもが入所（委託）した年月日を記入します。  |
| 一時保護の有無           | 一時保護の有無についてどちらかを○で囲みます。   |
| (2) 子どもが入所した施設の種別 | 子どもが入所した施設種別について、1. から 10. までの中から 1 事例につき一つ選び、番号を○で囲みます。<br>「10. その他」は、1. から 9. のいずれにも該当しない場合で、○で囲み、施設種別を（            ）の中に記入します。                    |
| (3) 他府県施設入所       | 子どもが入所（委託）した施設（里親）の所管が他の自治体である場合の自治体について、都道府県市番号を記入します。   |
| (4) 養護問題発生理由      | 養護問題が発生した理由について、1. から 26. までの中から最大4つまで選び、番号を○で囲みます。<br>「26. その他」は、1. から 25. のいずれにも該当しない場合で、○で囲み、養護問題発生理由を（            ）の中に記入します。                    |
| (5) きょうだいの状況      |   |
| きょうだいの有無          | きょうだいの有無についてどちらかを○で囲みます。  |
| 施設入所の有無           | きょうだいありの場合で、児童福祉施設入所（里親委託）の有無についてどちらかを○で囲みます。   |
| (5)-1 きょうだいの人数    | きょうだいの人数を記入します。   |
| 同じ施設              | 子どもが入所した施設と同じ施設に入所しているきょうだいの人数を記入します。   |
| 違う施設              | 子どもが入所した施設と違う施設に入所しているきょうだいの人数を記入します。   |
| (5)-2 違う施設の施設種別   | 子どもが入所した施設と違う施設に入所しているきょうだいが入所している施設の施設種別について、1. から 11. までの中から選び、人数を記入します。<br>「11. その他」は、1. から 10. のいずれにも該当しない場合で、○で囲み、施設種別を（            ）の中に記入します。 |

(6) 保護者の状況	保護者の状況について、1. から 9. までの中から選び、○で囲みます。
(6)-1 主たる保護者 入所年月日	(6)で、「9. 両親ともいない又は不明」を選んだ場合の主たる保護者について、1. から 10. までの中から選び、○で囲みます。 「8. その他」は、1. から 10. までのいずれにも該当しない場合で、○で囲み、具体的な主たる養育者を（ ）の中に記入します。
(7) 家庭復帰の 見通し	親（主たる保護者）がいる場合のみ記入します。 家庭復帰の見通しについて、1. から 4. までの中から選び、○で囲みます。
(8) 子どもの状況	1. から 14. の項目について、それぞれ評価対象となる年齢を基本に確認し、「評価対象外」は1、「疑いなし」は2、「やや疑いあり」は3、「疑いあり」は4、「確かに問題あり」は5、「判断困難」は6を○で囲みます。
(9) 子どもの心身の 状況（身体疾患 ・障害）	子どもの身体疾患または障害の有無についてどちらかを○で囲みます。 （複数回答可）
(9)-1 子どもの心身の 状況（身体 疾患・障害	子どもの身体疾患・障害の内容について、1. から 15. までの中から選び、○で囲みます。 「15. その他」は、1. から 14. までのいずれにも該当しない場合で、○で囲み、具体的な身体疾患・障害名を（ ）の中に記入します。
(10) 子どもの心身の 状況（精神障害）	子どもの精神障害の有無についてどちらかを○で囲みます。
(10)-1 子どもの心身の 状況（精神 障害）	1. から 5. の項目について、それぞれ「確定診断あり」は1、「疑いあり」は2、「判断困難」は3を○で囲みます。 1. から 5. の分類については、調査票にそれぞれ※以下に具体的な診断名を記載していますので、参考にしてください。
(11) 障害者手帳所持	1. から 3. の項目について、それぞれ「所持(1級)」は1、「所持(2級)」は2、「所持(3~6級)」は3、「未判定(申請中)」は4、「なし」は5、「不明」は6を○で囲みます。
(12) 定期的な通院の 必要性	1. から 4. の項目について、それぞれ「あり」は1、「なし」は2、「不明」は3、を○で囲みます。
(13) 心理療法の必要 性	心理療法の必要性については、「あり」は1、「なし」は2、「判断困難」は3、「不明」は4を○で囲みます。
(14) 被虐待体験の 有無	被虐待体験については、「あり」は1、「なし」は2、「不明」は3を○で囲みます。
(14)-1 虐待の種類	虐待の種類について、1. から 4. までの中から主なものをひとつ選び、○で囲みます。
(15) 保護者対応の困 難度	保護者対応の困難度について、1. から 5. までの中から選び、○で囲みます。

- (16) 他施設種別等の検討
- 何らかの事情で児童にとって適切と考える入所措置（里親委託）等ができなかった状況を確認し、必要な社会的養護ニーズを把握するための設問です。このため、当該施設の設置の有無や、空き状況等による実情は考慮せず、あくまでも子どもの処遇にとって必要な観点からの回答をお願いします。
- 実際に入所措置（里親委託）した施設種別以外を検討したかどうかの有無について、「あり」は1、「なし」は2を○で囲みます。
- (16)-1 検討した施設種別
- 検討した施設種別について、1. から 11. までの中から選び、○で囲みます。「11. その他」は、1. から 10. までのいずれにも該当しない場合で、○で囲み、具体的な施設種別を（ ）の中に記入します。
- (16)-2 選択しなかった理由
- 検討した施設種別を選択しなかった理由について、1. から 4. までの中から選び、○で囲みます。「4. その他」は、1. から 3. までのいずれにも該当しない場合で、○で囲み、具体的な理由を（ ）の中に記入します。
- (16)-3 事例の要件
- 事例の要件で入所が困難だった理由について、1. から 7. までの中から選び、○で囲みます。「7. その他」は、1. から 6. までのいずれにも該当しない場合で、○で囲み、具体的な理由を（ ）の中に記入します。
- (17) 措置変更又は措置変更の検討の有無
- いったん入所措置（里親委託）をしたものの、不調となり措置変更した場合には、措置変更先の施設種別について社会的養護ニーズがあると考えられ、回答をお願いします。
- 措置変更又は措置変更の検討について、「あり」は1、「なし」は2を○で囲みます。
- (17)-1 措置変更又は措置変更検討施設種別
- 措置変更を行った又は措置変更を検討している施設種別について、1. から 11. までの中から選び、○で囲みます。「11. その他」は、1. から 10. までのいずれにも該当しない場合で、○で囲み、具体的な施設種別を（ ）の中に記入します。